

2017年度

環境活動レポート

(対象期間 2017年4月～2018年3月)



発行 2018年5月30日

入間川ゴム株式会社

1. 事業所の概要及び登録範囲

事業所	入間川ゴム株式会社・本社工場
代表者氏名	代表取締役社長 清水 佑樹
環境管理責任者	技術部 池田 隆直
事業内容	工業用ゴム製品製造・販売
主要製品生産重量	3,300 トン
従業員数	117 名
所在地	埼玉県狭山市入間川 1-15-40
電話番号	04-2953-3131
床面積	9,621 m ²

事業所	大阪支店
所在地	大阪府東大阪市楠根 1-8-3
電話番号	06-6746-2551
従業員数	8 名
床面積	222 m ²

事業所	名古屋営業所
所在地	愛知県名古屋市中区金山 3-12-13
電話番号	052-331-6256
従業員数	3 名
床面積	165 m ²

2. 環境方針

入間川ゴム株式会社 環境方針

<環境理念>

私達、入間川ゴム株式会社は環境負荷低減に向けた活動を行い、人と環境にやさしい事業活動を目指します。

<環境方針>

1. 事業活動を通じて省エネルギー、省資源の推進をはかる
2. 事業活動によって生じる廃棄物の削減及びリサイクルに取り組み、環境や資源に配慮した製品づくりを心がける
3. 環境関連の法規制を遵守する
4. グリーン購入に努める
5. 化学物質排出量の削減に努める
6. 全従業員にこの環境方針を全体朝礼、社内掲示板等を利用して周知する
7. 環境目標を定め、それに取組み定期的に見直しをすることにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行う

2016年7月1日
入間川ゴム株式会社
社長 清水 佑樹

3. 環境目標と実績

1) 2017年度全社環境目標と中期目標

2015年度のデータを参考に基準値とし3ヵ年目標とし、廃棄物と水は16年度のデータを基準として修正した。

項目	目標値	基準値	2016年度 目標値	2017年度 目標値	2018年度 目標値
CO2 排出削減	生産重量当りCO2排出量削減 <u>18年度は15年度比97%以下</u> CO2/生産重量	0.655	0.648 以下	0.642 以下	0.635 以下
廃棄物削減	生産重量当り廃棄物最終処分量 <u>18年度は16年度比94%以下</u> 廃棄物最終処分量/生産重量	0.0405 (修正)	0.0309 以下	0.0393 以下 (修正)	0.0381 以下 (修正)
水使用量の削減	生産重量当り地下水使用量削減 <u>18年度は16年度比98%以下</u> 地下水使用量/生産重量	2.00 (修正)	2.67 以下	1.98 以下 (修正)	1.96 以下 (修正)

電力のCO2排出係数は、0.464で換算した

項目	目標	基準値	2016年度 目標値	2017年度 目標値	2018年度 目標値
グリーン購入	環境適合商品の購入 (品目数)	33	34 以上	35 以上	36 以上
	環境負荷の小さい材料 の購入件数	6	6 以上	5 以上	5 以上
化学物質削減	PRTR物質の排出削減	1380kg	1340kg 以下	1300kg 以下	1260kg 以下
製品に関する項目	不適合率の削減 (生産部署合計)	4.5%	4.3% 以下	4.3% 以下	4.2% 以下

2) 2017 年度の環境活動計画

項目	実施計画	実施確認
CO2 削減 電力	設備更新(検討事項) ・天井照明の水銀灯を高効率ランプに更新 ・受電トランスの更新	未実施、他の案件を優先した。次年度も検討する。 未実施、5年間で段階的に更新する計画案を検討する。
ガス	・工場内の古い蛍光灯を LED に交換 ・電熱プレスの効率的な稼働	85 灯交換した(4,200kwh/年) 17 年度目標達成した。(15 年 0.15→16 年 0.15→17 年 0.13kwh/分)
ガソリン	・ファン・ポンプの運転時間の見直しとインバーターによる省エネ ・ボイラー設定温度の見直しと効率の確認 ・プレス機フレキシブルホースの長さの見直し(短くする) ・蒸気配管・バルブ付近の保温	30kw モータを高効率モータに更新、スクューコンプレッサーを更新し、効率の良いコンプレッサーを優先的に使用した。 ガス量・稼働時間・生産量をみて設定温度を低くした。 1 台実施 流量が悪く再調整した。
ガソリン	・エコ運転によるガソリン使用量の削減(燃費確認)	直管部は実施 燃費改善し目標達成
廃棄物	・ゴムの引取り先を継続的に探す ・産廃の中身を定期的に確認し、分別を徹底する ・リターン生地を定温庫で管理、圧延サイズを見直して廃棄する圧延生地を削減する	廃棄ゴムの引取り先は見つからなかった。ビニール類は 1 件変更 処理業者の引取りが滞り産廃に回っていたが、分別を促した。 一部定温庫で保管、圧延サイズは適時見直したが、生産頻度の少ないゴムの利用は難しい。
水使用量	・地下水の使用経路を確認し、無駄な水の削減 ・冷却水の止忘れ防止、異常の発見対応	流量の不明箇所があり、メーターの設置を検討。 数値上漏水を把握していたが、場所の特定が遅れ使用量が増えた。
グリーン購入	・環境対応商品の優先購入、詰め替え可能な商品を購入 ・資材購入… 近くの工場、低エネルギーとなる大量生産・新設備の製品を購入	17 年度も目標品種を増やし、環境商品を多く購入した。 17 年度は、前年より 1 件案件が多かった

化学物質	<ul style="list-style-type: none"> ・溶剤による洗浄方法の再検討(削減事例を調査) ・洗浄用として、代替溶剤を混合した溶剤の使用を推進 	<p>良い事例は見つからなかった。</p> <p>代替溶剤を多く使用したが、洗浄効果が劣るため、トルエンは減らないので再検討する。</p>
------	--	---

3) 過去3年間の環境負荷の実績

*印は環境目標

項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度
CO ₂ 排出量	CO2 トン	2,192	2,078	2,136
エネルギー投入量 [電力]	G J	28,113	26,504	27,790
エネルギー投入量 [化石燃料]	G J	16,934	16,164	16,090
*生産重量当りCO ₂ 排出量	CO2 トン/生産重量トン	0.656 (達成)	0.659 (未達成)	0.646 (未達成)
*生産重量当り廃棄物処分量	廃棄物トン/製品トン	0.0293 (達成)	0.0385 (未達成)	0.0391 (未達成)
廃棄物再利用率	%	68	60	56
地下水使用量	m ³	8,353	6,058	7,154
上水使用量	m ³	1,961	1,792	1,802
*生産重量当り地下水使用量	地下水m ³ /製品トン	2.54 (達成)	1.94 (達成)	2.19 (未達成)
製品生産重量	トン	3,300	3,100	3,300

電力のCO₂排出係数は、本社工場 0.464 大阪支店 0.450 名古屋営業所 0.518

(CO₂kg/kwh) で換算、CO₂排出量、エネルギー投入量、上水使用量は全社(3事業所の合計)、その他は本社工場のデータ

項目	内容	単位	2015年度	2016年度	2017年度
*グリーン購入	環境適合商品の購入	品目	35 (達成)	41 (達成)	40 (達成)
	環境負荷の小さい材料の購入	件	-	5 (未達成)	6 (達成)
*化学物質削減	トルエン他排出量の削減	Kg	1,380 (未達成)	1,260 (達成)	1,260 (達成)
*製品に関する項目	不適合率の削減	%	4.54 (未達成)	4.63 (未達成)	4.19 (達成)

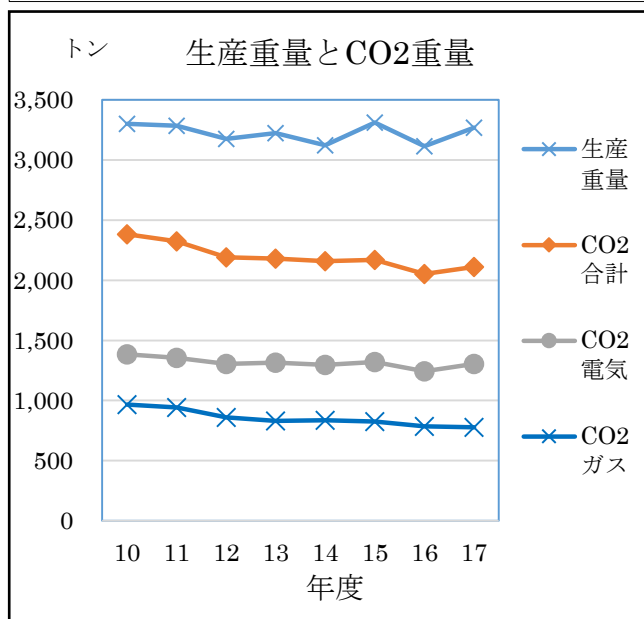
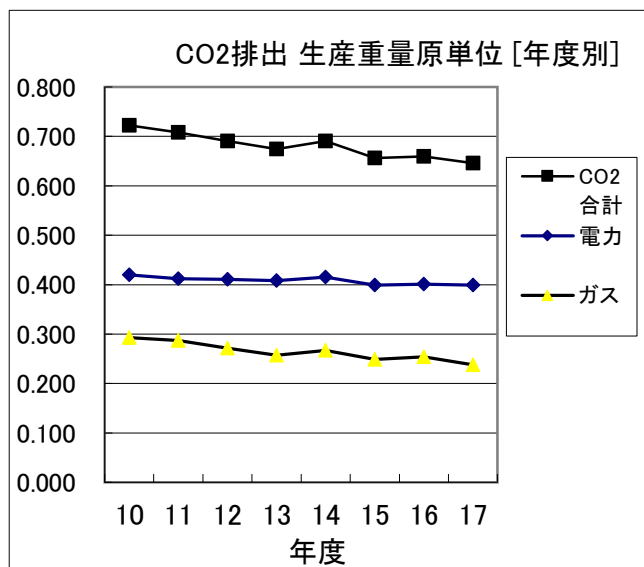
4) 2017年度の取組結果とその評価

① CO2

CO2の排出量は、生産量に依存するので環境目標は生産重量原単位〔CO2ト/生産重量ト〕でみており、2017年度は2015年度を基準に3ヵ年目標の2年目で、基準年は生産量が多くエネルギー効率も良かったので、目標レベルが高く環境目標には未達成でありましたが、経年的には低減して実際の排出量も下がっているのです、このまま継続して削減に取り組めます。

CO2削減の効果は蒸気の低減が大きくその燃料であるガスの使用量が低減しております。プレス機を使用しない時は蒸気を止めることを徹底し、蒸気配管の保温、配管を短くするなど効果が数値でも表れています。

電力はスクリーコンプレッサーを更新し、配管を繋いで効率の良いコンプレッサーを優先的に使用しています。



工場内の蛍光灯を LED (80w→32w) に 85 灯交換し、省エネとしては全体の電力が大きいので、目に見えて電力低減を確認できるほどではありませんが、照度が上がり作業環境の改善につながっております。

電力の低減はガスほどの効果はありませんが少しずつ低減しております。

② 廃棄物削減

廃棄物は全体の量から見るとその大半がゴム類・廃プラで、環境目標は産廃の最終処分となる廃棄物を削減することとしております。

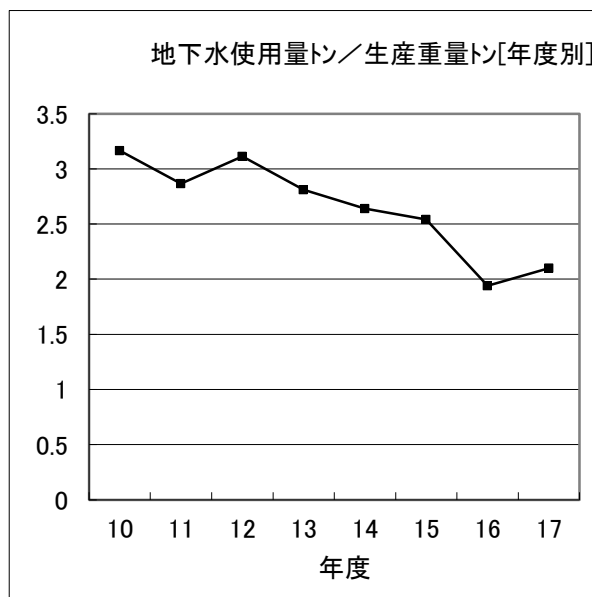
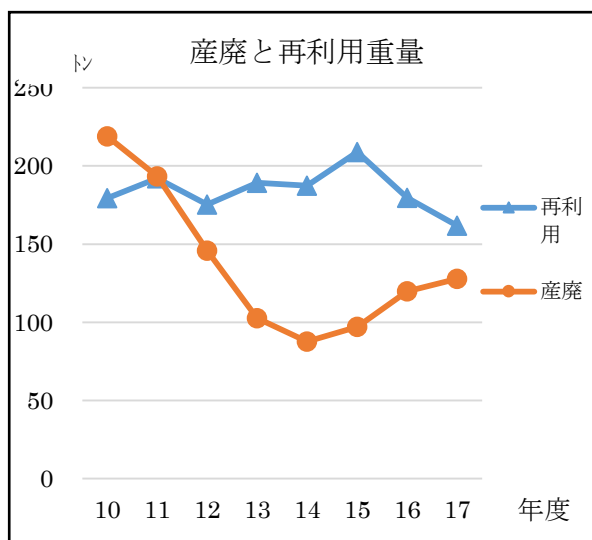
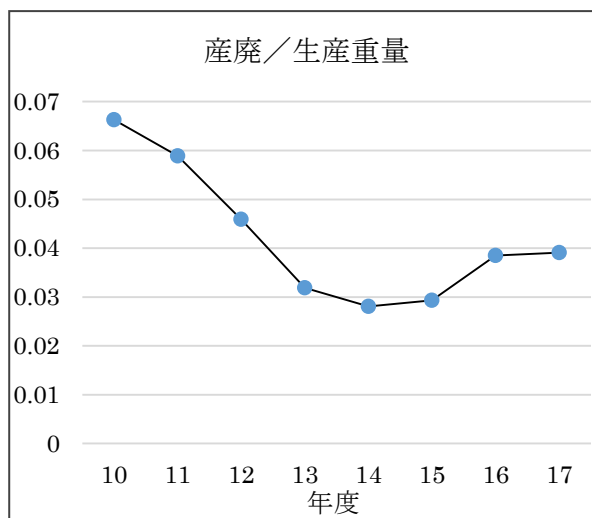
[産廃／生産重量]

廃棄するゴムの削減は、再利用用途としてゴムチップ用、燃焼用に分別して産廃量を減らしてきました。経年的には大幅に減らし 2014 年まで減りましたが、2015 年は不良などで廃棄するゴムが増えたこと、2016 年からは燃焼用としての再利用が一部できなくなり、この分が産廃になっているため増えています。また未加硫ゴムを廃棄する量が増えており対策を行っております。

③ 総排水量削減

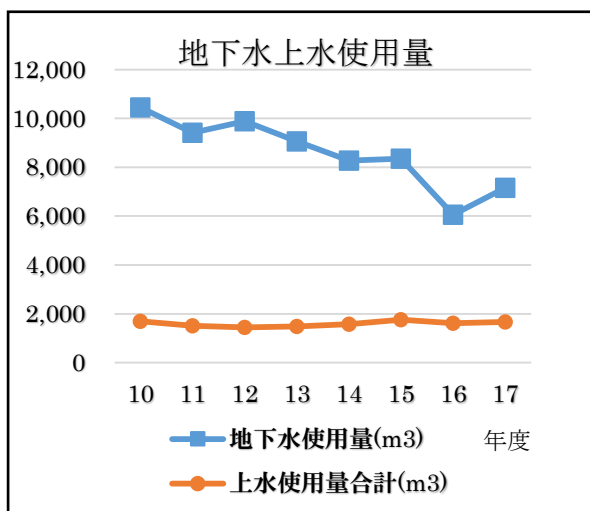
総排水量の削減は、使用量が多い [地下水使用量(m3)／生産重量(t)] の削減を目標としております。

2016 年度まで設備の更新等で大きく減りましたが、2017 年度は 2 箇所 で漏水が発生して増えており、目標にも未達となりました。この漏水が



目標未達成の原因ですので、異常の早期発見に努めます。

上水の使用は全体では多くありませんが、一部の場所で増えてきており、止め忘れの防止と節水の呼びかけを行います。



④ グリーン購入

グリーン商品の購入は事務用品が主であり、購入品種を増やすことを目標にして達成しており、また詰替え可能な商品の購入を進めています。

実際の生産に関わることとして、「環境負荷の小さい資材の購入」の件数を目標にしており、新しい案件が少なくなってきましたが目標件数は達成しております。

⑤ 化学物質排出量の削減

当社はP R T R物質を使用しておりますが、環境中に放出するものは溶剤が多いので、トルエンなどについて使用量の低減を目標としております。使用量が特に多いのは大型の機械を洗浄する時で、直接製品が通るところは洗剤の使用が難しいので、なるべく代替溶剤の使用を増やしてトルエンの使用を少なくするよう勧めています。

⑥ 自らが生産・販売提供する製品サービスに関する取組

不適合率の低減に取り組んでおり、毎年高い目標としてなかなか達成できませんでしたが、2017年度は目標達成し歩留まりもアップし生産効率は良くなっております。この品質目標は環境目標にも関連するものと思われ、全社で改善に取り組んでおります。

4. 次年度の取組内容

1) 2018年度の目標及び中期目標

2018年度は3年目標の最後の年で、2017年度の実績も中期目標に近いものでしたので、2018年度の目標は中期目標通りとし、2019年度以降の中長期目標は2018年度の取組と実績の評価をもって決めます。

2) 2018 年度の活動計画

CO2 削減 (ガソリン)	<ul style="list-style-type: none"> ・天井照明の水銀灯を高効率ランプに更新 ・工場内古い蛍光灯をLEDに交換 ・省エネパトロールによる指摘・改善 設備 ・ファン・ポンプの運転時間の見直しとインバーターによる省エネ 大阪支店・エコ運転によるガソリン使用量の削減(燃費確認)
産廃削減	産廃の中身を定期的に確認し、削減について検討する 不良品廃棄ゴム削減(再利用等)
水使用量削減	地下水の使用量を把握できていない所を調査し、無駄な水の使用を減らす
グリーン購入	環境負荷の小さい材料の購入を推進 グリーン商品の購入
化学物質	トルエンの使い方を再検討
製品に関する項目	不良原因調査・対策

3) 2018 年度の実行内容

① CO2 削減

工場 1 棟の天井照明は昨年からの案件で水銀灯を高効率ランプへの更新を検討、受電トランスは段階的に更新する計画案を検討し、工場内古い蛍光灯も省エネと作業環境を考慮して LED に継続して交換します。

これらの省エネについても省エネパトロールを行っており、指摘・改善していきます。

② 廃棄物削減

産廃の中身を具体的に確認し、削減について検討します。不良品などで廃棄量の多かったものについて、原因と対策を確認し削減への取組を実施します。

③ 総排水量削減

地下水の使用量を把握できていない所があるので、メーターを設置するなど調査して無駄な水を減らすことを検討します。

④ グリーン購入

2018 年度もグリーン商品の購入品増やすこととしております。

実際の生産に関わる項目では 2 年間行ってきました「環境負荷の小さい材料の購入件数」とし、環境への負荷の小さい材料を購入することを目標にします。

⑤ 化学物質排出量削減

洗浄用として、代替溶剤を含めた溶剤の使い方を再検討します。

⑥ 自らが生産・販売提供するする製品サービスに関する取組

2018年度も品質目標となっている不適合率の削減について各部署に展開し、全社で取組めます。

5. 環境関連法規の順守状況

環境関連法規制については、順守すべき法令の取りまとめをし、工場立地・工業用水・排水水・大気・化学物質・騒音・振動・廃棄物・フロン・公害防止・消防等の法令のチェック項目を作成し順守する仕組みを機能させており、重要な法規に関しては違反がないことを確認しております。

なお関係当局からの違反の指摘、住民からの訴訟等について過去3年間ありませんでした。

・ 環境汚染の防止

測定例として次の項目があり、測定値は基準値以内でした。

公共用水域への排水水の水質汚染物質の測定（2017年4月～2018年3月）

水質汚濁物質	測定濃度平均	狭山市指導基準値
BOD (mg/L)	2	25

煤煙発生施設に係るボイラーからの窒素酸化物測定値

2017年10月20日 2基測定

煤煙発生施設 (仮 No)	1	2
窒素酸化物濃度 (ppm)	62	47
規制値 (ppm)	150	

6. 代表者による全体の評価と見直し

社長、各部署長による代表者による全体の評価と見直し会議を2018年3月7日に行い、内容については本レポートの通りで次の項目について確認、指示がありました。

EA21 ガイドライン 2017年版については、2019年度から運用する。

環境目標達成状況、環境活動計画、取組実施状況

- ① CO2削減
- ② 廃棄物削減
- ③ 排水量の削減
- ④ グリーン購入
- ⑤ 化学物質排出量削減

⑥ 本来業務

⑦ その他

- | | |
|--------------|----------------------------------|
| ・環境方針 | 変更なし |
| ・環境関連法規 | 環境関連法規取りまとめ一覧表を再確認 |
| ・外部コミュニケーション | 2017年度は近隣からの環境活動における苦情はありませんでした。 |

環境経営システムは継続的に改善させ、全員で目標達成を目指し、地域社会、取引先からも信頼されるよう環境活動に取り組むことを確認しました。